

組合長	檜崎猪太郎	副組合長	濱田國太郎	同	龜井 司
理事	横山 孫作	田口 源記	醍醐 資祐	三和 國章	宮崎 勝之
	溝口 傳	神谷 乙吉	堀内 長榮	北野 勇吉	大道寺謙吉
	小林 文吉	平井敬次郎	西向 太郎	福本 九牛	根津 義計
	山本 隆逸	小林万次郎	松元 徳三	(本人の希望次第にて採擇する事)	
囑託理事	中野 文夫	鶴野 隆一	佐藤 貞藏	岡島 雅雄	池本 國雄
	八日理事會決議に依り變更す				
顧問	岡崎 憲	堤 良明	山脇 武夫	庄 九一	
互友會寄宿舎	高船互友會員全部本組合に入會することとなりたるが故に今後本組合に於て特約乃至囑託となすこと決定せり				
雜事	日本郵船會社及び大阪商船會社の船員協會の施設に對し何等の隔意を抱かざること 組合員募集宣傳に關し本組合の綱領及び規約の精神に據り穩健を主として宣傳し決して誹謗又は排斥的の言動を謹み本組合の面目を傷めざること 本會議に出席したる委員				

濱田、龜井、田口、三和、宮崎、北野、山本、堤、都竹、檜崎 以上
日本海員組合創立事務所

都竹要次郎氏(海員協會主事)と本組合創立との關係を茲に記録し組合員諸君と共に長に記憶せんことを欲する所以のものは本誌中に既に記録しありて改めて詳述するの必要を見ざるべしと雖も同氏の抑も本組合創立運動に參與するに至りたる動機と其の出發點は何れにありやを述べんに本組合創立實行事務も意外に進捗し大正十年一月二十五日委員總會に於て組合長副組合長の選舉を施行したるに全會一致最も高點にて組合長に檜崎猪太郎氏(海員協會專務理事)の當選を見たり依て總委員會は六名の委員を擧げ此の當選の旨を齎し同月二十六日午後一時海員協會に檜崎猪太郎氏を訪問推薦したるは抑もの始めなりき其の後數回の交渉を重ね略ぼ承諾を得るの運びに至りたりしも確實なる回答を得ざるに先だち不幸にして同氏は重患に罹られ遂に病床の人となり如何ともする能はざりしに至る茲に於て三月十一日都竹要次郎氏は檜崎氏の意を受け創立實行委員諸氏と共に檜崎猪太郎を代理せられ本組合創立の運動に渾身の力を拂はれ諸般の事務を統管せられたり斯くして準備略ぼ成り病氣輕快するに至らざりしも四月六日愈々快諾の旨を都竹要次郎氏を通じて實行委員總會に於て發表ありたり此の間に於て幾多字餘曲折ありて種々の困難を感じたりしも實行委員諸氏と共に其に萬難を排し發會の準備の完成したるは實に五月四日なりき當日檜崎組合長は實行委員一同に對し正式に挨拶あり都竹氏は其の經過を組合長に報告あり引續